

6) 旅を終えて

今回の旅は、実質2日足らずで島後、島前を巡るという強行軍でしたが、知識豊富なガイドさんが同行し、多くの知見を得ることが出来た。しかし、隠岐世界ジオパークは単なるユニークな大地の地形・地質に止まらず、そのユニークな大地の上に形成されつつある独自の生態系、3万年前から人が住み続けた文化・暮らしなどその奥深さを痛感させられたものとなり、できればもう一度ゆっくり行きたいと思っている。

《追記》

隠岐は、奈良時代から身分の高い貴族などの配流地となっており、二人の天皇、後鳥羽上皇が1221年に、後醍醐天皇が1332年に配流されている。このことは古代から隠岐国が裕福で、天皇を受け入れるだけの文化・経済力があつたことを物語っている、その背景には、古代の豊かさを築いた「黒曜石交易」更に豊富な海産資源があつた。ちなみに、私がこのたびの旅行で買った一番の土産は岩のりでした。

隠岐観光図

